

令和4年度事業について

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens（略称 JABG）
- 2：設立等 昭和41年4月11日（法人成立の年月日）
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
（定款第3条）
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。（定款第4条）
（1）植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
（2）植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
（3）植物多様性の保全活動
（4）植物園に関する支援
（5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7：公益目的事業
公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究
公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

I：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外植物事情調査

派遣中止

2. 植物園概要

実施なし

3. 国際活動

開催なし

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

種苗交換・絶滅危惧植物種種苗交換の斡旋案内を正会員に配布し、種苗交換リスト原稿を収集してとりまとめを行なったが、配布は4月以降に遅れた。植物多様性保全事業における「絶滅危惧植物種の種苗交換」も合わせて実施した（提供園数7園、43種）。

2. 植物多様性保全事業

①植物多様性保全2030年目標の検討

・種子・胞子については「日本産絶滅危惧植物種の600種について自生地情報を持つ種子・胞子を保存」を目標と定め（2022年3月で475種）、「生物多様性国家戦略2023-2030」に掲載された。

②絶滅危惧植物の保全手法、種子保存・利用方針の検討

- ・超低温での種子保存試験を実施した。
- ・種子管理データベースのデータ項目を決定しデータ整理作業を進めた。
- ・種子保存特性の把握と保存手法の構築に向けた技術講習会を2回実施した。
- ・北海道大学附属植物園が中心となり生息域外保全の現状を調査・公表した。
- ・「種子・胞子・組織培養を使った保全フォーラム：小笠原の絶滅危惧種に注目して」を12月19日、オンラインで開催し、約120名が参加した。

③絶滅危惧植物の情報取り扱い

・植物情報システム委員会と連携し「日本植物園協会植物情報システム運用規約」制定、「植物の情報の取り扱いと著作物のライセンスに関するガイドライン」の改定案作成、「植物個体管理データベース」の項目ごとの公開基準決定を実施した。

④外来植物対策

- ・オオキンケイギク駆除広報とツヤハダゴマダラカミキリ注意喚起のチラシ5000部を作成・配布した。
- ・本物のキンケイギク *Coreopsis basalis* を栽培・展示した（富山県中央植物園）。

⑤植物多様性保全拠点園ネットワークの活動

- ・『植物採取の前に必要な許可申請（許可申請手続きのフロー）』を改訂、全拠点園に配布した。
- ・絶滅危惧種の特性調査ならびに種子などの収集を行なった。一部環境連携事業と兼ねて実施してい

る。186種（前年度比+22種）を収集（自生地情報あり178種、なし8種：22種は重複あり）。

・種子保全拠点園（新宿御苑および美ら島財団）での絶滅危惧植物の種子保存を行なった。2023年3月末現在の収集・保存状況は、レッドリスト記載種660種（前年度比+6種）。このうち野生または野生由来581種（前年度比+7種）、うち絶滅危惧種482種（前年度比+7種）である。

・拠点園の活動（調査・研究、教育・普及啓発、市民団体とのネットワークの構築など）をとりまとめ、大会プログラムに掲載して配布した。

・西日本拠点園交流会、中部植物多様性拠点園連絡会議は新型コロナ感染症の影響により実施なし。関東拠点園連絡会議を9月21日にオンラインで実施した。

・静岡県・日本植物園協会・環境省自然環境局新宿御苑管理事務所による「静岡県産絶滅危惧植物の生息域外保全連携活動」について、5月12日に覚書の取り交わしを行なった。

⑥植物情報システム委員会との連携

・「植物個体管理データベース（略称：個体データベース）」の本格運用に向けて準備を進めた。

・絶滅危惧植物保有状況調査の実施スケジュール案を検討した。調査は「植物個体管理データベース」を利用して令和5年度に実施する

・委託業務を兼ねて、データベースに関する研修会を2回実施した。

⑦ナショナルコレクション委員会との連携

・「植物個体管理データベース」にナショナルコレクションの分類群、保有者等の情報を格納する仕組みを構築した。

⑧環境省との協定に基づく連携事業

・「希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を実施した。

・「絶滅危惧種の保全技術に係る調査検討委託業務」でサガリラン、キリシマイワヘゴ、ホソバフジボグサ、リュウキュウヒメハギの生息域外保全、野生復帰事業をおこなった。

・「生物多様性保全推進支援事業」でシリベシナズナ、ジュロウカンアオイなど国内希少種の生息域外保全を行なった。

⑨2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）事業（環境省）

・会議に出席、広報等への協力を行なった。

⑩ワシントン条約寄託事業（経済産業省）

・受け入れに関する問い合わせ・相談に適宜対応し、任意放棄株の受け入れを進めた。

・令和4年度末の寄託管理株数は3,495株。

・「世界野生生物の日2023」（3月3日）の普及啓発活動に協力し、広報用画像データを提供した。

3. ナショナルコレクション事業

委員会を3回開催、ホームページ更新、パンフレット配布や雑誌等での記事掲載による普及活動、第10～14号の認定証授与、シンポジウム開催、新規ナショナルコレクション審査、再認定審査などの活動を行なった。

①認定証の授与

第57回岐阜大会ナショナルコレクション認定証授与式にて以下5件のコレクションについて認定証授与を行ない、それぞれのコレクションを紹介した。

第10号「小田急山のホテル庭園のツツジ」 小田急電鉄株式会社（東京都）

第11号「アマミアセビとリュウキュウアセビの遺伝資源コレクション」 京都府立植物園（京都府）

- 第12号「野生のハスおよびキバナハスのコレクション」 京都府立植物園（京都府）
第13号「日本花の会 サクラの種・品種コレクション」 公益財団法人日本花の会（東京都）
第14号「江戸椿を中心とする国営武蔵丘陵森林公園のツバキコレクション」
国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園（森林公園里山パークス共同体）（埼玉県）

②審査

第15号「小田急 山のホテル 庭園のシャクナゲ」 小田急電鉄株式会社（東京都）2023年3月17日認定

第16号「国営武蔵丘陵森林公園 サクラソウ品種群」 国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園（森林公園里山パークス共同体）（埼玉県） 2023年3月17日認定

第17号「新潟県立植物園アザレアコレクション」新潟県立植物園（新潟県）2023年4月18日認定

③再認定審査

第1号「武田薬品京都薬用植物園命名ツバキ品種群」武田薬品工業株式会社京都薬用植物園

第2号「神代植物公園サクラソウ品種コレクション」公益財団法人東京都公園協会神代植物公園サービスセンター

④普及活動

1：植物園シンポジウムの開催、パネル・植物展示

テーマ：第21回 植物園シンポジウム ふるさとの植物を守ろう

「ナショナルコレクション 貴重な日本の植物遺産を後世に伝える」

日時：2022年3月5日（日） 展示は3月4日～8日まで

会場：京都府立植物園研修室

主催：日本植物園協会・京都府立植物園

参加者：募集50名、応募50名、参加47名

展示：植物園会館1階でナショナルコレクション認定コレクションのパネル、植物展示を行った

⑤情報公開

- ・協会ホームページへの新規認定（10～14号）コレクションのプレスリリースを掲載
- ・協会誌57号報告記事「2021年～2022年認定日本植物園協会ナショナルコレクション」
- ・園芸JAPAN（2023年2月号）でのナショナルコレクション特集記事への取材協力
- ・園芸文化協会「園芸文化 みんなの広場」での「貴重な植物遺産 ナショナルコレクションを観に行こう！」（4回連載の1回目）の記事掲載

4. ワシントン条約にかかる寄託管理事業（委託）

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成7年から継続、令和4年度の寄託依頼植物数245株、年度末の保護育成管理園26園・総保護数3,495株。令和4年度契約金額3,438,130円

5. 環境省連携事業（委託）

29年度から継続して、環境省より「令和4年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を受託、当協会「環境省連携事業」として実施した。業務は植物多様性保全委員会に設置した環境省連携事業分科会が担当し、事業推進にあたった。委託業務は以下の4項目。①「国内希少野生動植物種等の

生息域外保全手法の検討」は18種について実施、②「国内希少野生動植物種等の生息域外保全」は18種を野生株から採種、または分譲により取得した。①②は7種の公開用資料を作成し、可能な場合は、種子を種子保存拠点園（新宿御苑・沖縄美ら島財団）で管理した。③「種子保存に関する検討」は、超低温の種子保存施設を持つ沖縄美ら島財団に業務を再委託して実施した。④「生息域外保全情報管理システムに関する検討業務」では、オンラインデータベースの維持管理、改善を行ない、令和5年度からの植物園での本格運用に向けて規約や必要文書等を整備した。令和4年度委託費8,465,035円

6. 「オガサワラグワ里親計画」共同事業の推進

オガサワラグワをはじめとする小笠原の絶滅危惧植物をテーマとしたオンラインによる講演会を開催し、普及活動を行なった。

日時：2022年12月19日（月） 13時～17時 オンライン（Zoomミーティング）

共催：国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター

後援：林野庁、東京都小笠原支庁、東京都小笠原村

名称：「種子・胞子・組織培養を使った保全フォーラム：小笠原の絶滅危惧種に注目して」

参加者：参加申込み人数：120名（うち植物園協会会員35名）

■講演

「種子保存の概論」 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 木村 恵

「種子を使った野生復帰」 国立環境研究所 西廣 淳

「種子発芽特性の検証」 沖縄県北谷町教育委員会 藤 彰矩

「シードパケットを使った野外播種試験」 福島大学共生システム理工学類 山下 由美

「小笠原での種子・胞子を使った保全の取り組み」 東京大学大学院理学系研究科附属植物園 出野 貴仁

■小笠原での保全事例報告

「組織培養技術を用いたオガサワラグワの生息域外保全」

森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 玉城 聡

「オガサワラグワをシンボルとした村民参加の森づくり」 小笠原村環境課自然環境係 井上 直美

「ホシツルランの種子を使った保全」 Islands care 向 哲嗣

「遺伝的多様性と地域との連携を考慮したタイヨウフウトウカズラの生息域内・域外保全」

京都大学大学院地球環境学堂/大学院人間・環境学研究科 瀬戸口 浩彰

■意見交換

(3) 学術や文化の振興

1. 第57回大会行事

担当：内藤記念くすり博物館附属薬用植物園

会期：令和4年5月17日（火）～19日（木）

会場：内藤記念くすり博物館大ホール（岐阜県各務原市）

方法：現地参加とオンライン参加のハイブリッド開催

参加者：現地77名、オンライン46名

- ・第57回定時総会
- ・開会式、表彰式（協会表彰6件）ナショナルコレクション認定証授与式（5件）
- ・研究発表会（口頭発表6件、ポスター発表5件、ポスター掲示5件）

- ・分野別会議
- ・委員会活動報告（教育普及・ナショナルコレクション・植物園シンポジウム・研究発表・植物多様性保全・植物情報システム）
- ・公開講演会『感染症について』（講師：荒川宜親 元名古屋大学医学部教授）
- ・植物園研修：内藤記念くすり博物館附属薬用植物園、名古屋市東山植物園

2. 植物研究会・技術者講習会

①植物研究会

「種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム：小笠原の絶滅危惧種に注目して」を、2022年12月19日に、森林総合研究所林木育種センターと協働して開催した。

②第1回技術者講習会

テーマ「海外からの植物導入と最新の栽培技術」

担当：薔薇園植物場

日時：10月26日～27日

会場：兵庫県生花大阪本部（大阪植物取引所）／兵庫県立淡路夢舞台公苑温室あわじグリーン館

参加者：41名

内容：1日目はバラエングループのメンバーが講師となって以下のテーマで講習を行ない、2日目はあわじグリーン館の解説により見学を行なった。

「植物を利用したイベント例紹介」、「海外からの植物導入について」

「植物防疫について（講師：神戸植物防疫所担当者）」

「環境に配慮した資材による植物活性方法」、「有機オーガニック栽培技術の植栽応用」

「育成用ポット「AIR-POT®」活用方法紹介」（イギリス エアポット社とオンラインで質疑応答を実施）

3. 「日本植物園協会誌 第57号」

日本植物園協会誌第57号（A4判128ページ、480部）を2月に発行した。会員への配布のほか全国の都道府県立図書館に寄贈した。

4. 分野別活動

□第1回目は各分野とも大会開催時に実施

■第1分野

（第58回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議）

担当：東京大学大学院理学系研究科附属植物園

期日：12月15日 Web会議

参加者：8園9名

■第2分野（第39回国公立植物園運営会議）

担当：大船フラワーセンター

期日：11月18日 Web会議

参加者：19園28名

■第3分野

担当：有限会社薔薇園植物場

期日：10月26日

参加者：8園12名

■第4分野

期日：令和4年9月9日 Web会議

II：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

1. シンポジウム、講演会等

①第20回植物園シンポジウム「夏休みオンライン食虫植物展」

主催：公益社団法人 日本植物園協会

協力：食虫植物研究会、茗溪学園中学校高等学校、(公社)園芸文化協会

日時：2022年8月6日(土)13～15時

方法：Zoom(基地局 日本植物園協会事務所)

申込人数：メール79名、Fax11名

講演：「日本の食虫植物」柴田千晶(食虫植物研究会)

事例報告：水戸市植物公園、神代植物公園、姫路市手柄山温室植物園、咲くやこの花館、兵庫県立フラワーセンター、板橋区熱帯環境植物館、

子どもたちに聞く！食虫植物のおもしろさ：茗溪学園中学校高等学校

※講演の様子は、実施後、日本植物園協会YouTube公式チャンネルで公開

②3団体共催事業「自然と人間との共生フォーラム ～緑が育む生物多様性・生命のゆりかご～」

主催：日植協、日動水、花博記念協会

日時：令和5年2月1日(水)午後2時～4時10分 オンライン

内容：ビデオメッセージ ジェーン・グドール博士(霊長類学者)

基調講演：「生物多様性が私たちにもたらしてくれる希望」

山極壽一(総合地球環境学研究所所長)

プレゼンテーション・パネルディスカッション

パネリスト

川北 篤(東京大学大学院理学系研究科附属植物園 園長)

秋葉 由紀(富山市ファミリーパーク 動物課衛生診療係長)

橋本 佳延(兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部主任研究員)

コーディネーター 湯本貴和(京都大学名誉教授)

(2) 普及啓発資料の発行

1. ガイドブック、書籍等

日本植物園協会第4分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物と文化に関する普及啓発を継続して行なった。増刷は実施しなかった。

2. ニュース等広報物の配布

「植物園協会ニュース」発行なし

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル等のデータ貸出

- ・生物多様性のパネルデータ貸出（1件）。
- ・令和5年度からの、牧野富太郎・「らんまん」による植物園利用促進事業として、高知県立牧野植物園からデータ提供を受け、各植物園で利用できるパネルデータの準備等を行なった。

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」（5月4日）事業

教育普及委員会により、個々の植物園での SNS 投稿に共通ハッシュタグをつけることを周知し、広報活動を実施した。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

各植物園で継続的に活用。

3. 自然災害被災地支援事業

実施なし

(5) 表彰

1. 表彰

協会表彰規程に基づき選考を行い、第57回大会時に表彰式を行った。

【木村賞】

稲垣 典年（高知県立牧野植物園）

正職員、非常勤職員の期間を通じて52年間にわたり牧野植物園で働き、高知県の野生植物に関する幅広い知識とコレクションを築きあげ、牧野富太郎の名を冠する植物園にふさわしい植栽展示と普及活動を行って来た。「ふるさとの植物を守ろう」という植物園協会の標語を文字通り実行して来た功績は大きい。

倉重 祐二（新潟県立植物園）

長年にわたり新潟県立植物園の運営にあたるとともに、ツツジ類をはじめとするさまざまな植物の繁殖、系統保存、生息域外保全の調査・研究に取り組み、所属園を超えた大きな成果をあげてきた。植物園協会では2014年以降理事を務めるとともに、各種委員会の委員として活躍し、特にナショナルコレクションの制定、運用に主導的な役割を果たした。

【植物園功労賞】

宮内 元子（渋谷区ふれあい植物センター）

企画展示やSNS等の情報発信を通じて、植物に関心のない層も含め、幅広く植物や植物園への理解、関心を深めることに貢献した。

【保全・栽培技術賞】

小幡 晃（日本植物園協会賛助会員）

野生植物の生育環境としてはあまり注目されない埋め立て地の植生に絶滅危惧種が多数生育することを示した興味深い調査である。野生植物の保全に関して、環境の変化をマイナスに捉えるだけでな

く、その活用の方向性も示していることが評価できる。

小幡晃：東京湾臨海部埋立地におけるキンラン属3種の生育状況調査（日本植物園協会協会誌 56：82-93 に発表）

勝木俊雄、橋場真紀子、清水淳子、梅原欣二、藤井聖子、玉城雅範、太田幹夫、大阪市立長居植物園

南は大阪府から北は青森県にかけての5つの会員園と会員外の3つの団体が関与するクマノザクラ保全と普及のための増殖・栽培の試験プロジェクトである。このような横断的なプロジェクトは多数の会員園からなる植物園協会の特色を示すものであり、それが立案され実施に移されたことは高く評価される。今後の進展を期待したい。

勝木俊雄、橋場真紀子、清水淳子、梅原欣二、藤井聖子、玉城雅範、太田幹夫、大阪市立長居植物園：クマノザクラの増殖と植物園などでの生育状況（日本植物園協会協会誌 55：80-84 に発表）

国立科学博物館 筑波実験植物園・植物研究部

研究者と技術職員が協力して活動した植物園らしい成果である。シダ植物を孢子から成体に育て上げることは、個人の趣味として高い技術が伝承されていると言われるものの、研究結果として技術がまとめられ、公開されることの意義は大きい。シダ植物の増殖技術として幅広い応用が期待出来る。

和知 恵子、堤千絵、中島香澄、山田佳子、小林弘美、二階堂太郎、平山裕美子、松本定、海老原淳：クマヤブソテツの孢子からの繁殖と順化（日本植物園協会誌 55：108-111 に発表）

(6) 教育普及活動

①第6回教育普及ワークショップ

日時：令和5年2月13日、オンライン（Zoom ミーティング）

参加者：31 機関、100 名前後の視聴

テーマ：「牧野富太郎と植物に関する展示を考える」

牧野富太郎や学名に関する講演、地域に密着した牧野富太郎の展示紹介、グループワークを実施。

■講演

「学名をつける」 邑田 仁（東京大学大学院・理学系研究科）

「牧野富太郎の植物研究と教育普及」 田中伸幸（国立科学博物館植物研究部）

■地域に密着した牧野富太郎の展示事例の紹介

（六甲高山植物園、千葉県立中央博物館、神戸市立森林植物園）

■日本植物園協会の企画「植物園で牧野富太郎」の紹介

■牧野富太郎に関する貸出資料の紹介（高知県立牧野植物園：小松加枝）

■ワークショップ（希望者のみ参加）

「らんまん」の放映に合わせて植物園施設ができることを考える

②高知県立牧野植物園の協力のもと、連携企画「植物園で牧野富太郎」を立ち上げ、アンケートで要望調査を実施し、企画準備を行った。

③オンラインで各園とつながるツアー「植物園のクリスマス」を実施。14 園の参加。

Ⅲ：目的の達成に必要な関連事業

1. 後援及び協賛等

【協力】

①一般社団法人日本公園緑地協会

令和4年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

【後援】

①フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

令和4年度フラワー・ブラボー・コンクール (FBC)

②公益財団法人広島市みどり生きもの協会

特別企画展「コケの不思議展」

③沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会

令和4年度沖縄国際洋蘭博覧会

④公益財団法人宇治市公園公社 宇治市植物公園

絶滅危惧植物展～身近な自然の危機～

⑤第13回国際食虫植物会議事務局

第13回国際食虫植物会議（実施なし。令和5年度に開催延期）

【共催】

①公益社団法人日本植物学会

日本植物学会 第86回大会シンポジウム

「ふるさとの植物を守ろう～植物園の新たな役わり～」

2. ホームページ活用及び広報活動

- ・ホームページリニューアルが実施できなかった（次年度実施）
- ・YouTubeに公式チャンネルを開設、当協会事業及び植物園への理解を深め、植物園のPRの向上を図ることを目的に情報発信（植物園オンラインツアー）を継続して行なった。

3. 諸会議

1. 第57回定時総会

日時 令和4年5月17日(火)14:00～15:50

会場 内藤記念くすり博物館大ホール

2. 役員会・委員会等

【理事会】

第1回臨時理事会 令和4年4月20日（書面）

第1回通常理事会 令和4年5月17日（各務原市）

第2回臨時理事会 令和4年5月17日（各務原市）会長等互選会

第3回臨時理事会 令和4年7月5日（Web）

第4回臨時理事会 令和4年8月31日（Web）

第5回臨時理事会 令和4年12月6日（Web）

第6回臨時理事会 令和5年1月20日（書面）

第2回通常理事会 令和5年3月17日（新丸ビルコンファレンススクエア）

【監査】

令和4年4月13日 岩隈史雄監事、栗山茂監事による監査の実施

【委員会】

- ・植物多様性保全委員会 2月24日 Web
環境省連携事業分科会（Web会議、メール会議）
外来種対策分科会（メール会議）
- ・植物情報システム委員会 8月18日 Web、11月27日 Web、3月15日（大阪：Web併催）
- ・ナショナルコレクション委員会 7月4日 Web、11月14日 Web、3月5日（京都）
- ・ホームページ委員会 10月18日 Web
- ・協会表彰候補者選考委員会（メール会議）
- ・教育普及委員会 2月19日（国立科学博物館：Web併催）

4. 寄付、寄贈

■寄付金（10万円以上）

- ・稲葉 正臣 氏 10万円（寄付金の使途：植物園シンポジウム）

5. その他

- ・大船フラワーセンター60周年式典出席（西川会長、倉重専務理事）
- ・公益社団法人園芸文化協会 園芸文化賞・表彰式祝辞（西川会長）
- ・2027 横浜国際園芸博覧会への協力（西川会長、倉重専務理事）
展示構想・演出検討有識者委員会 出席
花と緑の共創推進会議 出席
- ・温帯地域の花木・観賞樹木に関する国際シンポジウム（WOTZ2024）への協力（倉重専務理事）

令和4年度事業報告 附属明細書

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。